

## 問1 島根原発の再稼働

以下の理由により、二者択一の回答は現時点ではどちらとも言えない。

島根原発2号機については、原子力規制委員会の新規制基準適合性審査が終盤を迎え、今年中には新基準適合が見込まれる可能性が大きいということです。

ただし、この審査結果だけをもって直ちに再稼働が決定されるわけではありません。

事業者や原子力規制委員会には、市や市議会、松江市原子力環境安全対策協議会、市民に対してしっかり説明し疑問点も明らかにすることを求め、市民や関係者、専門家の意見もしっかり聞いた上で、慎重に判断しなければならないと考えています。

## 問2 島根原発の必要性

以下の理由により、二者択一の回答は現時点ではどちらとも言えない。

私自身、幼児を抱えているときに東日本大震災での事故を見て、本当に怖い思いをしました。放射能物質は目に見えませんが、子どもに食べさせるものひとつとっても、汚染していないだろうか不安を感じながら子どもの世話をしていました。

子どもの命、市民の命を考える時、原発の問題は非常に大きいと承知しております。

当然、原発は、無いに越したことは無く、最終的には無くなるべきもの、不要となるものと考えています。しかし、今すぐに原発に代わってベースロード電源になるものは無いのも現実です。

安定的に発電できる他の技術が確立されるまでの当分の間は、安全性と確実な発電所の運転管理を条件として、原発は不可避であり、その意味で必要性はあると考えています。

## 問3 避難計画

全ての項目が重要な課題だと考えています。

全市民が、安全に避難できるためにはどうすればよいか、上記避難計画を実行するにあたって、どんな課題があるのか、市民とも一緒に考えていきたいと思えます。

特に自家用車避難時の渋滞を想定した避難訓練の実施、要支援者の避難手段の具体化を進めること、屋内退避を行う意義についての積極的な広報などが当面の課題だと考えています。

毎回訓練を行うことでその都度、明らかになる課題を整理し、一つ一つその課題を解決す

る努力を誰もで知恵を出し合っていくことが重要だと考えています。また、自家用車による避難行動で発生する渋滞問題を解決する手段のひとつとして大量輸送が可能な鉄道の活用の可能性についても検討してみる価値があるものと思っています。

#### 問4 エネルギー政策

国は、再生可能エネルギーの開発などに一定規模の予算を投資し、できるだけ早く環境に負荷のかかる火力発電や、原子力発電の割合を低減し、クリーンエネルギー社会を実現すべきと考えています。

一方で、エネルギー問題については、自分たちの問題として考える必要があると考えています。地域エネルギー政策については、松江市においてはほとんど検討されてこなかった経過があります。ただし、国によるエネルギー構造転換促進事業が開始されたことにより、玉湯の地熱発電を契機に、松江市においても調査研究が進んでおります。

中海・宍道湖・大山圏域市長会の構成市である、米子市、境港市においては、米子市及び周辺の地域特性を活かし、「まちのエネルギーをデザインし、地域内資金循環を実現する」事業会社として、平成27年12月には、地元、中海テレビ放送他4社と米子市、境港市が出資し「ローカルエナジー株式会社」が設立され、自然再生エネルギーを活かした地域内電力供給事業が開始されています。

こうした取り組みの成果と課題についても調査、研究しながら、松江市においてどのようにこの問題に取り組むべきかの答えを出していきたいと考えています。

松江市では、エネルギーの構造転換に向けて再生可能エネルギーの導入を進めて行くための「松江市エネルギー活用ビジョン」の策定を令和3年度に行う計画もあるようですので、具体的にはここで検討を行うことになると思っています。